

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
2	川崎市立南大師中学校	熊木 節子

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
(1)何事も科学的に処理できる人をめざそう。 (2)社会生活のすべてを民主的に行える人をめざそう。 (3)豊かな教養を持った人をめざそう。 (4)健康で働く意欲のある人をめざそう。 (5)世界の人々から尊敬される人をめざそう。	○地域に根ざした開かれた学校 ○保護者の期待に応えられる学校 ○生徒が自己肯定感を高められる学校	○生徒の安全を第一に、生徒が充実感・達成感を味わえる、自己肯定感を高められる教育活動の実践。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、魅力的な授業展開を工夫し、生徒の学習意欲を高める。 ○基礎基本の定着を図るためのわかりやすい授業の実践。 ○広島への修学旅行を集大成とした系統的で幅の広い平和学習を3年間通して行い、平和の尊さを深く理解できる生徒の育成を図る。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導・教育課程	○生徒が主体的に授業へ参加できるように学び合いを多く取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を授業展開の中で工夫した。 ○小中および中高連携教育では、相互に授業参観を実施した。(四谷小・大師高) ○拡大要請訪問を実施し、授業改善を図った。	○授業実践を通じて、教師や生徒にも「主体的・対話的で深い学び」の大切さが浸透しつつある。 ○相互に実施した授業参観をふまえ、書面や代表者による対面での意見交換や情報交換を行い、研修を深めた。	○教育課程研究会や校内授業研究会で学んだことを今後の授業に生かしていく。 ○図書室の整備を進め、図書利用や読書活動が活発になるようにする。また、総括学校司書とも連携し図書の充実を図る。
2 生徒指導・特別活動	○あいさつや日常的な声かけ、教育相談活動を通して、生徒の様子を把握し、迅速な対応に努めた。 ○学校全体で情報を共有し共通理解を図り適切な指導に努めた。 ○外部から講師を招き「人権教育移動教室」や「サイバー犯罪防止教室」を実施した。生徒の安心、安全な生活のためのよい学びの場となった。 ○生徒主体の行事を積極的に行い、生徒の自己肯定感が高められるような工夫をする。	○教職員が生徒との良好な関係を築くために、きめ細やかな声かけに努めている。 ○定期的な教育相談以外に、生徒が相談しやすい環境の整備や時間の確保が必要である。 ○学校行事や生徒会行事をコロナ前の活動に戻すことができ生徒の自己肯定感を高めることができた。	○カウンセリングマインドを大切に支援や指導の充実を図り、より確かな信頼関係づくりに努める。 ○生徒の不安や相談に、全職員が関わりをもてるように職員の意識改革を進めるとともに、役割分担を明確にして対応する。 ○長期欠席者とその保護者には丁寧な対応を心掛け、組織的に関わっていくとともに、アプローチの方法を工夫し、本人、保護者の意向に沿った指導、支援を進める。
3 保護者・地域社会等との連携	○掲示板学校便りや写真を掲示し、大会で結果を残した部の横断幕を校舎外壁に掲示した。又来校された方へ向け職員室前に学校・学年便りや写真を掲示し、広報活動に取り組んだ。 ○生徒の主体的な活動の場として地域での様々なボランティア活動を支援した。 ○PTA活動は、制約の多い中ではあったが、工夫しながらできることを実行していった。	○今年度はHP上に体育祭の開催の有無についての情報などをタイムリーに掲載することができた。今後も工夫しながら開かれた学校づくりを進めていく。 ○コロナ禍により、中止のとなったイベントが徐々に戻りつつある。今年度は特に本校を会場に地域教育会議子ども会議が行われた。 ○PTA行事へ積極的に参加して、保護者からの信頼を高め、地域に根ざした学校づくりをさらに推進していく。	○掲示板や学校ホームページの定期的な更新に努め、教育活動を積極的に発信する。 ○ボランティア活動を推進し地域に貢献する生徒の育成に努める。 ○学校関係者評価委員会でアンケート結果を精査し、教育活動の点検と改善を行う。
4 平和教育	○令和2・3年度の教育課題(平和学習)の研究主題である「さまざまなアプローチから平和について学ぶ試み」のもと全校体制で平和学習を推進していく。 ○平和の尊さを深く理解できる生徒の育成をめざし実践を重ねる。	○広島への修学旅行を集大成とした系統的な平和学習の実践を推進した。実際に広島を訪れ、平和の尊さをより深く理解することができた。 ○各学年、段階に即した平和学習を行い、文化祭の発表や掲示物で交流することができた。	○学年間の連携を強化し、各学年ごとに取り組んだ平和学習の成果をまとめるとともに、本校における「平和学習スタンダード」の確立をめざす。

5	健康・安全教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○薬物乱用防止は外部講師による講演会、熱中症予防は学級担任による学級活動として実施できた。</li> <li>○防災教育研究推進校として、各学年の取り組みを軸としながら各種避難訓練を通して、防災意識の向上に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒に健康意識を高めてもらうためにも、今後も継続して行う。また、テーマや開催時期によって形式を検討していく。</li> <li>○集団下校訓練・津波に対応する垂直避難訓練・シェイクアウト訓練等の実践的な訓練を通して、生徒の防災に対する意識の向上がみられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○薬物乱用防止、熱中症予防だけでなく、食育等にも取り組んでいきたい。</li> <li>○多面的に危機管理意識の向上が図れるよう、今後においても様々な想定による訓練を継続的に実施する。</li> </ul>
6	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の生徒の実態に応じ、年間を通して多くの職員でかわりをもつことができた。</li> <li>○特別な支援が必要な通常級の生徒について、関係機関とも連携し支援方法の工夫・改善に努め、支援級への移籍も促した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関とも連携し全職員で共通理解を図ることができた。</li> <li>○支援が必要な生徒の困り感や、個に応じた指導方法について、専門家等も交えて話し合い、適切な対応をする。場合により外部機関と連携し、ケース会議を計画的に実施していくことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の困り感や保護者の願いに寄り添い、生徒の個性を受け止め、支援方法などについて、さらに工夫、改善していく。</li> <li>○多くの職員やサポーターが関わり、全校での共通理解を図っていく。また、積極的に外部機関と連携し多角的に支援していく。</li> </ul>
7	キャリア在り方生き方教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「キャリア在り方生き方教育」の研究成果を生かし、継続して実践と研究を推進していく。</li> <li>○生徒が学校生活に関心を持ち、より積極的に、充実した毎日を送ることができ、自己実現が図れるように援助していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリアノートの活用を継続して行った。</li> <li>○研究成果をもとに「キャリア在り方生き方教育」の視点から、学校教育の在り方や教育活動を見直し取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科の年間計画の中に、さらにキャリア在り方生き方教育を位置付けていく。</li> <li>○3年間を通してきめ細かな「キャリア在り方生き方教育」を進め、夢や希望の実現につながるような教育課程を編成する。</li> </ul>
8	職員研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの権利学習派遣事業「性の多様性プログラム」を利用し、外部講師を招き、実践的な生徒への対応の仕方や知識の獲得を目指す。</li> <li>○昨年度に引き続き、業務改善推進に向け、業務改善について考え、実施していくための研修を行う。</li> <li>○いじめ防止、体罰根絶、教職員の不祥事防止等の研修を適宜行った。</li> <li>○「学校防災教育」研究推進校の指定を受け、年間を通じて本校の防災力の向上、生徒の防災意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○LGBTQについて、性の多様性を認めることの必要性や少なからずそういった子どもたちが本校にもいることを確実に認識し、今後の正しい対応に役立つ知識を持つことができた。</li> <li>○取り組むべき教育課題や今日的な課題について研修し、職員の資質向上等につながった。</li> <li>○拡大要請訪問(総合教育センターの各教科、領域の指導主事の訪問指導)を受け、授業改善に役立てることができた。</li> <li>○津波を想定した避難訓練や生徒に予告をしないシェイクアウト訓練の実施などにより、教職員を含め防災意識を向上させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平和の尊さを深く理解できる生徒の育成と本校における「平和教育スタンダード」の確立をめざして、さらに研究を推進する。</li> <li>○共生*共育を継続的に推進し、すべての生徒にとって居心地の良い学校・学級をめざす。</li> <li>○子どもたちの健全育成のために、情報モラル教育を計画的かつ継続的に実施する。</li> <li>○GIGAスクール構想を始めとして、取り組むべき教育課題や今日的な課題について継続的に研修し、職員の資質向上を図る。</li> </ul>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心・安全な学校生活を送れるよう、生徒に寄り添った教育を進めてほしい。</li> <li>○教育相談時期の工夫や、日頃から先生に相談できる関係を継続して行ってほしい。</li> <li>○現状のように落ち着いた学校生活ができるように、今後も努力してほしい。</li> <li>○基礎基本を大切にされた指導を実施し、主体的に学習する生徒を育ててほしい。</li> <li>○特別な支援が必要な生徒への対応をさらに充実させてほしい。</li> <li>○生徒の学ぶ場として、「寺子屋」の活動を今後もさらに充実させてほしい。</li> <li>○今年度取り組んだ防災教育は是非、継続をしてほしい。</li> <li>○部活動の在り方を長いスパンで検討して行ってほしい。</li> <li>○平和教育は、とても良い取り組みだと思う。</li> <li>○GIGA端末を有効的に活用した授業を増やしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、コロナ禍以前に戻りつつあるが、行事その他について安易にそのまま戻すのではなく、職員と検討、精選しながら教育活動を実践していきたい。</li> <li>○生徒の健全な成長を目指して、生徒に寄り添い、家庭、地域や行政機関との連携を深め、きめ細やかな取組を行う。</li> <li>○「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業展開を工夫するとともに、わかる授業を実践し、基礎学力の定着をめざす。また、校内にGIGAスクール構想へ積極的に取り組む雰囲気を一層醸成していく。</li> <li>○コミュニケーション能力の育成を図る取組を計画的に行っていく。</li> <li>○学校評価の結果を分析し、課題の改善に向け全職員が共通理解のもと努力していく。</li> <li>○寺子屋と連携して、生徒にとってより魅力的で安心して勉強できる環境づくりをめざしたい。</li> </ul>